

学校運営協議会（第3回） 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 加茂高等学校 学校運営協議会（第3回）
- 2 開催日時 令和7年2月6日（木） 15:00～17:00
- 3 開催場所 加茂高等学校同窓会館2階会議室
会議開催前、委員による授業参観（全日制）を実施した。
- 4 参加者

会 長	川 合 俊 治	全日制PTA会長
副 会 長	松 井 彰 良	ウインズコーポレーション 代表取締役
委 員	今 井 一 彦	司法書士
	尾 関 里 佳	地域代表
	迫 田 直 美	定時制教育振興会長
	松 尾 和 樹	可児市議会議員 NPO法人縁塾
	武 市 由紀子	元特別支援学校校長
学 校 側	森 川 賢 二	校長
	高 水 正 明	副校長
	伊 藤 強	事務部長
	庄 司 幸 宏	教頭
	松 久 潤	教頭
	津 田 健 介	教務主任（全日制）
	水 口 智 人	生徒指導主事（全日制）
	上 野 智 子	進路指導主事（全日制）
	尾 関 清 光	教務主任（定時制）
	武 藤 秀 彦	生徒指導主事（定時制）
	渡 辺 純 也	進路指導主事（定時制）

5 会議の概要（協議事項）

(1) 令和6年度具体的重点目標と年間反省について

学校側より、全日制・定時制とも、本年度の反省及び方策についての説明を行った。

【全日制】

① 令和6年度年間反省及び方策

<学校運営>

- ・Formsを利用したアンケートの利用により、多くの生徒・保護者より意見を聞くことができた。
- ・探究活動及び文理探究科の取り組みを、ホームページなどを活用して発信する。
- ・業務の効率化を図るため、更なるICT化を進めるとともに、分掌業務の再構築を行い、適材適所で人員を配置する。

<教務部>

- ・教務部探究課及びプロジェクト会議を中心として、探究活動の研究及び実践ができた。
- ・タブレット活用や文理探究科の設置に向けた動きは、順調に進めることができた。
- ・探究的な視点を取り入れた授業の在り方などについて、互いに研鑽を積んでいく体制を整えていく。授業参観を探究的な視点にフォーカスして実施する。

＜生徒指導部＞

- ・夏休み明けに生活リズムの取り戻しができない生徒が多くいたため、学校生活にスムーズに接続できるような工夫をする。
- ・落ち着いた朝を迎えることが安定した学校生活を送る要因の一つとして考えるため、生活習慣の定着を呼び掛けていく。

＜進路指導部＞

- ・進路意識を向上させるため、分野別説明会、出前講座、国公立大学説明会・専門学校説明会、懇談期間中の大学説明会、保護者進路説明会を開催することができた。
- ・進路行事のさらなる充実と、Classi の機能を活用し、生徒自身が自走できるような働きかけを進めていく。

② スクールミッションについて

- ・スクールミッションについては書面の通り、承認をいただいた。

【定時制】

① 令和 6 年度年間反省及び方策

＜教務部＞家庭に対してわかりやすく情報発信をする必要性がある。

＜生徒指導部＞帰国する生徒が例年より多い。定員増のため、クラス数が増えるため、丁寧な指導について工夫をする必要がある。

＜進路指導部＞7 割が就職希望。国籍によりスムーズに話が進まないこともある。5 月に企業ガイダンスに参加。コミュニケーションがしっかりとれて互いに好印象をもてた。就職者の 4 割がそのガイダンスの参加者。継続して実施したい。

＜学校運営＞学校の様子を保護者に伝えていけるように指導を進めたい。なにかが起きたらすぐに相談できるような関係を今後も築いていけるようにしていく。

意見 1：外部の力を借りて運営を進めることはよいと感じる。

質問 1：年が経つにつれて違うコミュニティの生徒たちとは交わったりしないのか？

⇒時間がたっても交われない子もいる。来日の時期の問題かもしれない。

質問 2：退学する生徒はいるのか？

⇒年々減少はしているが、県内と比較するとまだ多いかもしれない。家庭の事情や、仕事に注力してしまい学業がついていけなくなるなど様々な事情がある。

② スクールミッションについて

- ・スクールミッションについては書面の通り、承認をいただいた。

(2) 地域探究活動「地域課題研究」について（全日制）総合的な探究の時間の一環として実施した「地域課題探究」（第 2 学年）の授業参観の後、内容等の説明をした上で、学校運営協議会委員からご意見をいただいた。

意見 1：短期間であることを考えるとよかったのではないかと感じる部分はあるが、さらに一年ほど続けると、深まって面白いと感じた。

意見 2：来年度もできれば素晴らしい。継続してできると面白いと感じた。美濃加茂市のイベントにも参加してもらえると、地域を見る目が養われると思う。

意見 3：同じテーマで続けるとよい。市に意見が反映できるとよいと感じた。

意見 4：あのとき、こんな学習をしたという経験が財産になると思う。

意見 5：定時制のアンケートを題材にしたものが興味深かった。

意見 6：探究の質が問われることになる。解決策のまとめがやや不十分だと感じた。生成 AI の回答レベルで終わることのないようにしていくとよい。PDCA サイクルを回すことが大切だと思う。

意見 7：まとめ方を工夫する必要があると感じた。もう一度講師に聞きに行けるとよい。言葉の意味、使い方を正しく丁寧に行うとよい。

(3) まとめ

第3回学校運営協議会では、全日制の総合的な探究の時間で実施されている「地域課題探究」について、学校運営協議会委員に参観していただいた。令和6年度の年間反省については、委員の方々より貴重なご意見をいただき、来年度の方針や方向性についても賛同していただいた。また、第2回で審議したスクールミッションの策定について、全日制・定時制ともに委員の方々より承認を得た。今日求められている「自ら課題を見つけ、皆と協働し、課題解決にあたる人材」となれる生徒を育てるべく、「地域から信頼される学校」をめざし、学校内の論議だけではなく、地域の方からのご意見を積極的に取り入れて、学校運営を進めていきたいと考えている。